

**新型コロナウイルス対応緊急支援助成  
事業計画（実行団体）**

|               |                      |
|---------------|----------------------|
| 事業名(主)        | 感染対策を重視した避難所でのリハビリ支援 |
| 事業名(副)<br>※任意 | 高齢者や外国人等の生活弱者への支援強化  |

入力数 主 20 字 副 19 字

|         |                               |
|---------|-------------------------------|
| 実行団体名   | 特定非営利活動法人 ナガサキリハビリテーションネットワーク |
| 資金分配団体名 | 公益財団法人佐賀未来創造基金                |

**優先的に解決すべき社会の諸課題**

| 領域   | 分野   |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> 1) 子ども及び若者の支援に係る活動  | <input type="checkbox"/> ①経済的困窮など、家庭内に課題を抱える子どもの支援           |
|  | <input type="checkbox"/> ②日常生活や成長に困難を抱える子どもと若者の育成支援          |
|  | <input type="checkbox"/> ③社会的課題の解決を担う若者の能力開発支援               |
| <input type="checkbox"/> 2) 日常生活又は社会生活を営む上での困難を有する者の支援に係る活動                        | <input type="checkbox"/> ④働くことが困難な人への支援                      |
|  | <input type="checkbox"/> ⑤社会的孤立や差別の解消に向けた支援                  |
| <input checked="" type="checkbox"/> 3) 地域社会における活力の低下その他の社会的に困難な状況に直面している地域の支援に係る活動 | <input type="checkbox"/> ⑥地域の働く場づくりの支援                       |
|  | <input checked="" type="checkbox"/> ⑦安心・安全に暮らせるコミュニティづくりへの支援 |

|                        |  |
|------------------------|--|
| 上記以外<br>その他の解決すべき社会の課題 | <input checked="" type="checkbox"/> 新型コロナウイルス感染禍での災害時避難行動と新しい避難所生活の実践。 感染拡大防止に配慮された避難所 |
|------------------------|--|

入力数 50 字

**- SDGsとの関連**

|                   |
|-------------------|
| ゴール               |
| _3.すべての人に健康と福祉を   |
| _11.住み続けられるまちづくりを |

|      |                       |            |   |   |   |                 |      |
|------|-----------------------|------------|---|---|---|-----------------|------|
| 実施時期 | 2020年 12月 ~ 2021年 11月 | 事業<br>対象地域 | 全国 <input type="checkbox"/><br>特定地域 <input checked="" type="checkbox"/> ( 長崎 佐賀 ) | 事業対象者：<br>(事業で直接介<br>入する対象者<br>と、その他最終<br>受益者を含む) | 自治会役員や自治会の関係者 民生委員<br>長崎JRAT関係者 佐賀JRAT関係者 外国人<br>行政など避難所関係者 | 事業<br>対象者人<br>数 | 300人 |
|------|-----------------------|------------|---|---|---|-----------------|------|

**I.団体の社会的役割**

|  |
|--|
| <b>(1)申請団体の目的</b>  |
| この法人は、医療・保健・福祉に関わる者や住民に対して、地域リハビリテーション※に関する事業を行い、リハビリテーション医療の向上発展を図り、もって社会の医療、福祉の充実に寄与することを目的とする。  |
| ※地域リハビリテーションとは、障害のある子供や成人・高齢者とその家族が、住み慣れたところで、一生安全に、その人らしくいきいきとした生活ができるよう、保健・療・福祉・介護及び地域住民を含め生活にかかわるあらゆる人々や機関・組織がリハビリテーションの立場から協力し合って行う活動のすべてを言う。（日本リハビリテーション病院・施設協会による定義／2016）  |
| <b>(2)申請団体の概要・事業内容等</b>  |
| この法人は、第3条の目的を達成するために、次の特定非営利活動に係る事業を行う。<br>(1) 地域リハビリテーションの支援体制整備事業<br>(2) リハビリテーションに従事するものへの研修会や講演会を開催する事業<br>(3) 保健・医療・福祉におけるリハビリテーションの普及・啓発・調査・研究事業<br>(4) 関係機関や団体との連絡調整を行う事業 |

入力数 (1) 275 字 (2) 161 字

**II.事業の背景・社会課題**

|   |
|---|
| <b>新型コロナウイルス感染症により深刻化した社会課題</b>   |
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●従来の感染対策以上の対応となるとその人数規模に合った設備が必要となる。</li> <li>●避難所での3密を避けるための基準に従うと避難者を収容しきれない。</li> <li>●理想的な隔離スペースの確保は難しい状況である。</li> <li>●避難者情報が一元化できずに正確な避難者情報の集約が困難となる。</li> <li>●高齢者の廃用症候群の発症を招き、心身機能の低下者が急増する。</li> <li>●外国人は災害になると今以上の情報が届きにくくなり、孤立化が進むことが考えられる。</li> </ul> |

入力数 203 字

### III.事業内容

|   |
|---|
| <b>(1)事業の概要</b>   |
| 2019年から新型コロナウイルス感染症が全世界で猛威を振るう中、今災害が起こった場合一次避難所はその特性上、人が急激に密集せざるを得ない環境にある。その為これからの新しい避難所は、3密の回避や今まで以上の感染予防対策を講じると共に、感染疑い者を隔離しつつ介護予防対策を講じる必要がある。これを実行するためには感染予防に関わる物品の備蓄と使用方法の訓練も必須となる。これら一連のを行うことで、住民や避難者も主体的に行動し、障害児・者や高齢者、日本語が堪能でない外国人など災害弱者、避難弱者への安心・安全な避難環境を提供し、災害関連死ゼロを目標にすべてのリソースが機能するように準備したい。 |

入力数 295 字

|  |
|--|
| <b>(2)事業実施後（1年後）以降に目標とする状態</b>   |
| 長崎JRAT協力施設を設置し、必要な物品や感染予防物品が整備・備蓄されており、感染対策を講じた避難所運営に関する研修会を経て、県内外を問わず緊急事態が発生した際には迅速に活動ができるという状態。障害児・者や高齢者、外国人など避難弱者への配慮物品を含む物資が配送できる状態。2年目は隣県の佐賀JRATとの機能的連携を現実的とし、その後は九州内で同様の連携体制を構築する。斜面住宅地における避難者対策も検討していく。 |

入力数 206 字

| (3)今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）  | 実施・到達状況の目安とする指標  | 把握方法  | 目標値/目標状態   | 目標達成時期                  |
|---|--|---|--|-------------------------|
| <ul style="list-style-type: none"> <li>●感染対策の必要品を備蓄しており、有事の際には県内外を問わず避難所や支援者が使用できるような体制を整えている。</li> <li>●県下複数個所で長崎JRAT協力施設を指定している。そこに所属するスタッフは上記物品の運用にも携わるとともに、自治体、自治会、企業、研究機関等と連携し感染対策を講じた避難所運営に関する研修会を実施する。</li> <li>●感染禍の避難行動についての冊子は要所へ配布されていて、データ版は協力施設に配布されている。これには外国語対応の情報が含まれる。</li> <li>●本事業の避難所運営研修をまとめたWEBサイトを公開し、避難所運営に必要な情報をいつでも見れる状態にする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●感染対策物品の使用に関する協定を自治体と結ぶ</li> <li>●研修会参加名簿</li> <li>●感染禍の避難行動についての冊子（外国語対応の情報も含む）が完成している（500部）</li> <li>●避難所運営研修ホームページを公開と常時閲覧可能な状態</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●定時連絡・報告</li> <li>●簡易訓練</li> <li>●文書保管</li> <li>●参加者カウント</li> <li>●報告書</li> <li>●ホームページ公開</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>●半期に一度webによる緊急通報訓練</li> <li>●年に1度の全体合同研修（実地とwebのミックス）</li> <li>●年に1回の支部でのイベント</li> <li>●報告書の提出</li> <li>●感染禍の避難行動についての冊子の配布先一覧が保管されている。</li> <li>●避難所運営研修の内容をいつでもホームページ上で見れる状態になる。</li> </ul> | 2020年12月から2021年11月の間に完了 |

| (4)活動  | 時期                |
|--|-------------------|
| 1. 衛生・廃用予防物品の備蓄：新型コロナ感染禍での避難所活動において必要な物品を選定し、一定量を備蓄する。その際に行政機関などが進めている備蓄計画に関する情報を参考にしながら種目と分量を決める。避難所において何らかの支援的立場の人が使用する物品を備蓄する。  | 2021年4月～2021年9月   |
| 新型コロナウィルス感染禍での避難所で導入したいPPE个人防护具や非接触体温計、サーマルカメラシステム、ソーラーバッテリーシステムを含んで備蓄。購入、備蓄した物品は下記2.の研修会に活用する。  |                   |
| 2. 避難・避難所の暮らしに関する研修の機会：主要避難所にて感染禍の避難についての集合研修を行い、感染対策と避難所運営について研修を行う。その際には段ボールベッドやパーティションなどの避難所用具の体験を含めて行う。これは同時にリモートで長崎JRAT協力機関等とつなぎ、感染禍でのリモート機能の重要性と有効性についても学ぶ。この研修は同時に佐賀JRATと協働で行う、佐賀JRATからは現地派遣とリモート参加の2種類で参加を依頼する。別途リモート研修を行い、主にJRAT協力機関と緊急時の通信、連絡について研修を重ねていく。 | 2020年12月～2021年11月 |
| 3. 資料集、冊子の作成：長崎市では実際の避難所生活未経験者が多いので円滑に行動できる人が少ないであろう。住民主体の避難所運営を啓発するために避難所での生活とその影響を記載した感染禍の避難所生活に関する冊子を作成し、配布と啓発を行う。これは次年度以降の研修会にも継続的に利用していく。これには災害や避難行動に関する情報を含み、避難弱者への配慮や外国語対応の情報をも含むものとする。   | 2020年12月～2021年11月 |
| 4. 避難所運営研修をまとめたWEBサイトを公開し、避難所運営に必要な動画や資料集、冊子等の情報をいつでも閲覧・ダウンロードできる状態にする。  | 2021年10月～2021年11月 |

### IV.事業実施体制

|                           |  |
|---------------------------|--|
| <b>(1)メンバー構成と各メンバーの役割</b> | ナガサキリハビリテーションネットワーク内の長崎JRAT担当者が本事業の全体の調整、監督を行う。長崎県理学療法士協会を中心とし、長崎JRATの協力団体からの推薦者が実働の中心的役割を担う。物品備蓄は長崎JRAT事務局中心に対応する。研修会は長崎JRAT協力機関と佐賀JRATにも応援を依頼する。感染禍の避難行動についての冊子の作成は長崎JRAT世話人と長崎県理学療法士協会を中心に対応する。   |
| <b>(2)他団体との連携体制</b>       | ナガサキリハビリテーションネットワークの協力団体である長崎県理学療法士協会と長崎県作業療法士会、長崎県言語聴覚士会は企画・運営などの中心的な役割を担う。佐賀JRATへは主に研修について協力を依頼する。長崎県内では、研修対象自治会、関連行政機関（長崎市消防局、長崎市危機管理室、長崎市総合事務所、長崎県福祉保健課・医療政策課・長寿社会課、保健所など）、長崎JRATに関係する職種団体（医師会、看護協会、介護支援専門員協会など）とも連携する。加えて長崎JRATの協力機関には各事業への積極的参加を依頼する。長崎JRATの事務局は、一般社団法人是真會長崎リハビリテーション病院においているので、同法人とも連携する。 |
| <b>(3)想定されるリスクと管理体制</b>   | 避難所の実際における研修では現地参加者の新型コロナウイルス感染の可能性がある。研修内容に合わせた最小限の参加者募集を行う。参加者の行動履歴、体調管理、入場者の体温チェックと問診を行う。研修中は換気、手指消毒剤の定期的な促しこれを行う。準備や後片付け時は物品の接触感染を避けるため手袋を装着する。感染症対策以外は転倒や怪我等の注意の促しなど、通常の作業上の注意喚起をおこなう。保険対策は自己管理の旨周知する。リスクコントロールはナガサキリハビリテーションネットワークと長崎県理学療法士協会が中心となって対応する。  |

V. 関連する主な実績

| (1) 休眠預金以外の助成・補助金活用の有無  |                                       |                                       |              |
|---|---------------------------------------|---------------------------------------|--------------|
| 新型コロナウイルス感染症に係る事業   |                                       |                                       |              |
| ① 本申請事業について、新型コロナウイルス感染症に係る助成金や寄付等を受け活動を実施している(予定も含む)   | 有 <input type="checkbox"/>            | 無 <input checked="" type="checkbox"/> | 有の場合<br>その詳細 |
| ② 本申請事業について、国又は地方公共団体から補助金又は貸付金（ふるさと納税を財源とする資金提供を含む）を受けていない   | 無 <input checked="" type="checkbox"/> | ※有の場合、選定の対象外となります（公募要領：助成方針参照）        |              |
| (2) 申請事業に関連する調査研究、連携の実績   |                                       |                                       |              |
| <p>ナガサキリハビリテーションネットワーク（長崎JRAT）の連携の実績</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・長崎JRATの組織化 ナガサキリハビリテーションネットワークと職能団体（医師会、看護協会、理学療法協会、作業療法士会、言語聴覚士会、介護支援専門員協会、義肢装具士会など）との組織化や協力機関（医療法人など）の組織化など</li> <li>・研修会の実施 公開研修会やリハ専門職対象の研修会、地域住民対象の避難所体験研修会などの各種研修会を毎年1回以上実施</li> <li>・被災地への派遣 日本災害リハビリテーション支援協会（JRAT）からの要請により長崎JRATから熊本地震や東日本豪雨災害、令和元年佐賀豪雨災害へ支援隊を派遣</li> <li>・総合防災訓練など防災行事への参加</li> <li>・長崎県と長崎JRATで災害協定を締結</li> </ul> |                                       |                                       |              |